

Tenshi College
Graduate School of Midwifery

天使大学大学院助産研究科 助産専攻の現状と課題

天使大学 近藤潤子

天使大学大学院 助産研究科修了生（助産修士）

助産基礎分野

助産教育分野

■ 1回生	25名		
■ 2回生	32名		
■ 3回生	24名		
■ 4回生	24名		
■ 5回生	21名		2名（9月修了）
計	126名	+	2名 = 128名

助産基礎分野

- 入学定員 30名
- 修業年限 2年
- 取得単位数 56単位以上
- 学位：助産修士（専門職）
- 助産師国家試験受験資格

【助産教育分野 2008開設】

助産の教育者、助産実習指導者を目指す方々
助産実践(臨床経験)5年以上の助産師

- 入学定員 10名
- 修業年限 1年半
- 取得単位数 56単位以上
(うち21単位は付与対象科目)
- 学 位：助産修士(専門職)

助産基礎分野・助産教育分野 入学者状況

回生 (入学年度)	定員	受験者	合格者	入学者 合計	入学者内訳		
					推薦	一般	社会人
1 (2004)	40	32	30	27	—	25	2
2 (2005)	40	45	39	34	16	13	5
3 (2006)	40	29	28	27	11	15	1
4 (2007)	40	32	28	26	11	10	5
5 (2008)	30+10	40	27	21+2	8	8	5+2
6 (2009)	30+10	34	31	22+7	11	4	7+7

修了者就職先

回生 (修了年度)	病 院	診療所	助産院	教育 機関	計
1 (2005)	24	0	1 #	0	25
2 (2006)	29	3	0	0	32
3 (2007)	23	1	0	0	24
4 (2008)	23	0	1	0	24
5 (2009)	22	0	0	1 *	21+2

助産院開業

* 助産教育分野修了生

教育目標(めざす助産師像)

1. 女性に優しい自然出産を自律して
医療機関や地域で実践するために、正常経過の診断・ケアおよび、正常からの逸脱の判断及びケアができる能力の育成。
2. 科学的根拠の明らかにされている手段を、
ケアの質の向上に応用する力の育成
3. 助産管理並びに助産師教育の仕組みの理解、
助産チーム及び他職種との連携・調整能力の育成

めざす助産師像

4. 次世代育成に向けた子育て支援の
アセスメントと支援、及び地域や他職種との連携・
調整能力の育成。
5. 性と生殖に関する倫理的問題のアセスメント、
性教育プログラムの開発、各ライフステージ
に応じた健康教育・相談ができる能力の育成。
6. ライフサイクルに対応した女性のリプロダクティブ・
ヘルスの増進を図るため、対象に権利と意思決定
を尊重しながら、相談・教育・援助活動ができる能力
の育成。

めざす助産師像

7. 安心して子どもを生み育てるために、
地域母子保健活動を他職種と連携・協働しながら
主体的に実践できる能力、並びに政策化できる
能力の育成。
8. 国際助産活動について理解を深め、
国際助産活動での交流や発展途上国で
の助産活動を通して貢献できる能力の育成。

【助産教育分野の教育目標】

教育機関・臨床現場において、
助産師を目指す学習者に、教授学習の
理論を踏まえ、学習者の知識・技術の
獲得、実践に向けて統合できるよう
教育・指導する能力の育成

助産基礎分野

看護系
大学等卒
(学士の
資格あり)

推薦入試

(卒業見込者)

一般入試

(臨床経験3年未満)

社会人入試

(臨床経験3年以上)

出願資格認定審査書類

看護
専門学校・短大卒
学士資格なし

【助産教育分野】

**助産師
免許取得**
(専門学校
短大専攻科
4年生大学)

**助産師
としての
実務経験
5年以上**

**助産教育分野
入学試験**

助産基礎分野

修了要件単位数：56単位

必修(53) 選択(3/11)

助産 基礎科目

17

2

助産 実践専門科目

(助産ケア実践:実習含む)

31

(実習 20週, 分娩介助平均17例)

助産 発展・展開科目

4

9

特別統合研究科目

1

【助産教育分野】

修了要件単位数：56単位

必修(55) 選択(1/13)

助産 基礎科目

10

1

助産 実践専門科目

(助産ケア実践:実習含む)

26

(うち21単位は付与対象科目)

助産 発展・展開科目

17

特別統合研究科目

2

年次教育計画 助産基礎分野

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
1年次	講義		マタニティサイクル 助産ケア 基礎実習ⅠⅡⅢ(9週間)			補講	夏休み	定期試験	講義	マタニティサイクル 助産ケア 統合実習Ⅰ(6週間)		冬休み	マタニティサイ クル助産ケア 統合実習Ⅰ (6週間)	定期試験 補講
2年次	講義		マタニティサイクル 独立助産実習(6週 間)	ハイリスク助産演 習		補講	夏休み	統合 実習 Ⅱ(2 週 間)	発展・展開科目演習・実習		冬休み	発展・展開科目演 習・実習		
	特別統合課題研究		ハイリスク助産演 習	マタニティサイクル 独立助産実習(6週 間)					特別統合課題研究			特別統合課題研究		

助産基礎分野 マタニティサイクル助産ケア

《1年次科目》

理論から 実践へ

講義・演習

I : 妊娠期

II : 出産期

III : 産褥・新生児期

臨床実習

＜病院実習＞

→ * 基礎実習 I II III

(1年前期:9週間

毎週末学内カンファレンス)

* 統合実習 I

(1年後期:12週間

個別・継続的なケアを)

助産基礎分野

マタニティサイクル助産ケア

《2年次科目》

講義・演習

Highrisk 助産学 I II

Highrisk 助産演習

(MFICU, NICUへ)



独立助産実践概論

独立助産演習

臨床実習

＜病院実習＞

* 統合実習 II

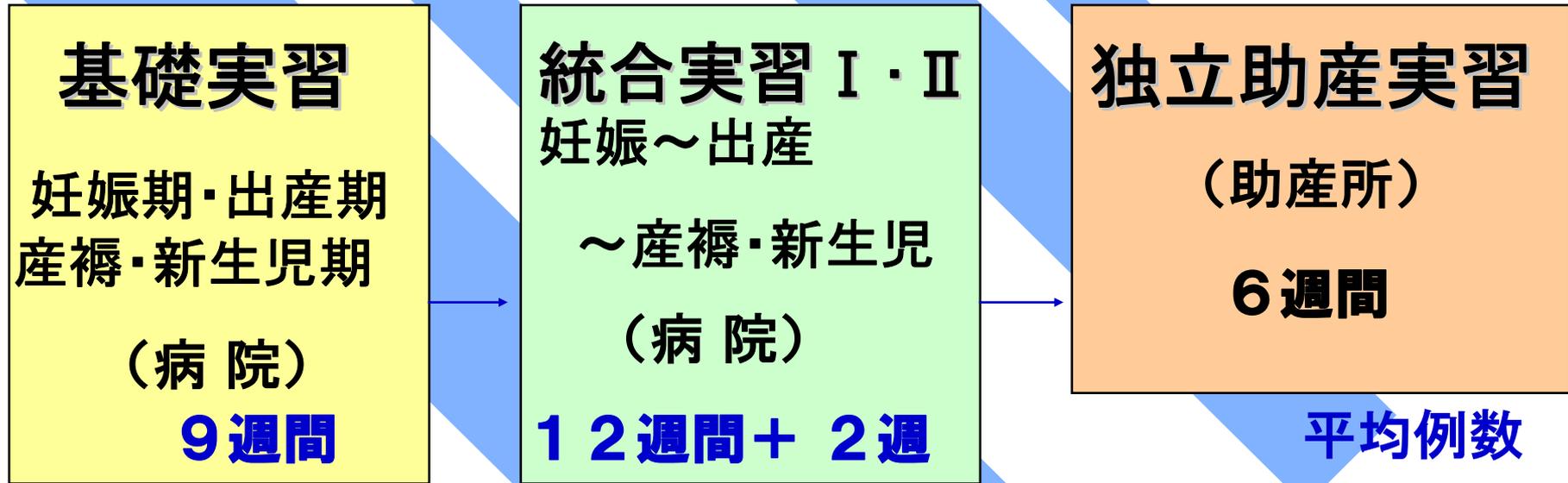
(病院でのインターンシップ,
2週間)

＜助産院実習＞

* MC独立助産実習

(助産所のインターンシップ,
6～7週間)

助産基礎分野の実習展開



	基礎実習	統合実習 I・II	独立助産実習	平均例数
妊婦診断・ケア	15例	10例	数例	94例
産婦診断・ケア*	3例	7例	3~5例	17例
褥婦・新生児	3例	7例	10例	24例
(*分娩介助例数)		家庭訪問 2例	2例	7例
			集団指導	4-5例

3回生、2008.3修了

【助産教育分野】の実習展開

統合実習

妊娠期・出産期
産褥・新生児期

【病院】

3週間

(付与単位数12)

妊婦健診・保健指導
産婦*、褥婦
・新生児1-2例
家庭訪問
(*分娩介助含む)

独立助産実習

妊娠～出産
～産褥・新生児

【助産所】

6週間

妊婦・産婦*
・褥婦&新生児
数例

家庭訪問
(*分娩介助含む)

教育実習

助産教育実習
臨床助産教育実習

【学内・病院】

各1週間

クラスルームでの
助産科目の授業
臨床現場での助産学生
の実習指導に参加

臨床実習施設 (2009年度)

実習種類	病 院	診療所	助産院	他	計
基礎実習	7				7
統合実習 I	6	1			7
独立助産実習			7		7
統合実習 II	5	1			6

教育方法の特色

理論と実践をつなぐ

- * 少人数による教育
- * 双方向教育
- * 実習・インターンシップ
- * 実践例に基づく教育
を大切に・・・

教授・学習様式

モジュールによる
学内、自学自習型の学習

学 生

プリセプターシップ、
メンターシップによる教育

発展展開科目

助産基礎分野

発展・展開

- 子育て支援論 I
子育て支援論 II・演習
- 性教育 I
性教育 II・実習
- ウィメンズヘルス I
ウィメンズヘルス II・演習
- 国際助産学 I
国際助産学 II・実習

発展展開科目⇒助産教育科目

教育概論

教育計画の原理と展開

教授学習法の理論と展開

教育評価

教育機関の運営と評価

助産教育実習

臨床助産教育実習

助産師教育課題研究

専任教員の構成

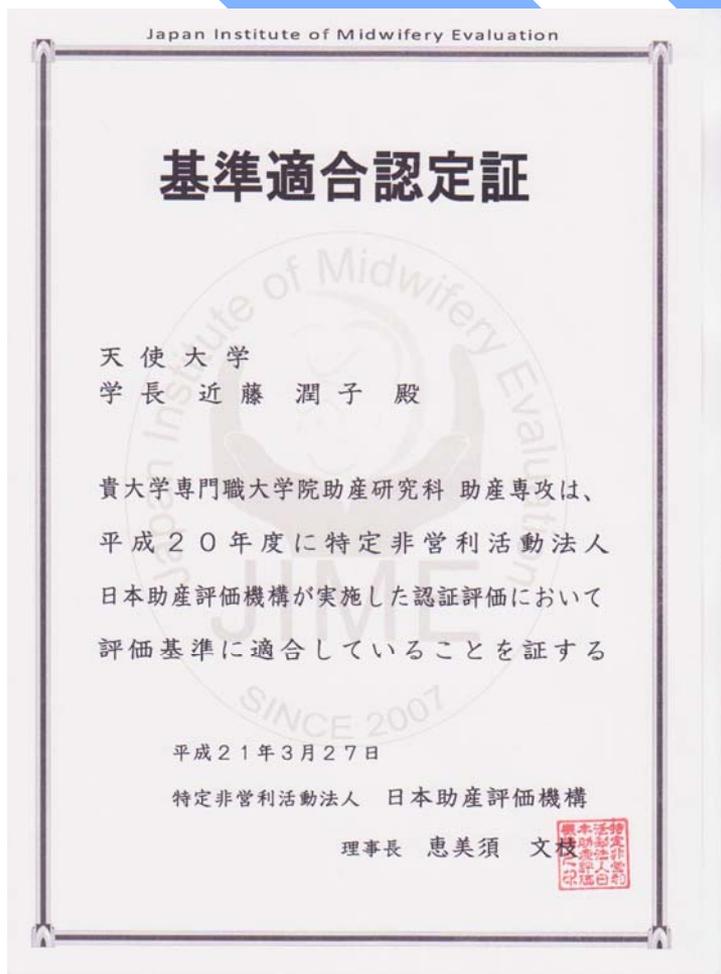
年 度	教授	准教授	講師	助教	計
2008	9 (* 1, # 1)	0	6 (* 2)	0	15
2009	9 (* 1, # 1)	3	2 (* 2)	1	15

* 臨床専任教員(みなし教員) ()内数
兼任教員 その他 実習指導教員17~20名

看護領域では日本初の、分野別評価！

助産専門職大学院として

認証評価「適合」を受けました。



日本助産評価機構

2009. 3. 27

評価基準適合マーク